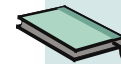


この本と私



「チーズはどこへ消えた?」

スペンサー・ジョンソン 著
門田 美鈴 訳

扶桑社

十年以上前に購入し、自宅の本棚に眠っていた本書を手にとった。物語は2匹のネズミ、スニッフとスカリー、2人の小人のヘムとホーにより進行する。「迷路」の中で「チーズ」を探しながら気持ちが変わり、行動が変わっていく。挿絵は「チーズ」だけで、読み進むに従い、読み手もチーズを追いかけていることに気付く。本の構成が楽しく面白く、何度も読み返した。

本の前後にはこの物語についての「ディスカッション」が数十ページ載せられている。「チーズ」そして「迷路」は、何を象徴しているのだろうか。本の表紙には『一見シンプルなのに物語には、深い内容がこめられているのです』と書かれています。ソウダッタ・・・人が元気に過ごす、仕事で認められる、良い対人関係を作る等々。人生において成功するために必要なことは『変化』する事。本書内の「チーズ」は必要で大切なもの。古い「チーズ」に気付き、新しい「チーズ」に向かう変化を楽しむ。現状の優れた認識と、いつも楽しく、新しく、そして素早い行動が人生においての成功や幸せに繋がっていると知りました。

聰子